白い象を求めて
—Transit In Thailand & Cambodia—

辻 本 希 望

ワタクシ、辻本希望こと T.HOPE は非常に悩んでおりました。今までも師の無茶振りは目に余るものがありましたが、今回は何と「お前ら、白い象を探してこい」と軽々と言ってのけるではないですか。「どこの始皇帝だよ！」とツッコミたい気持ちを抑えるのが精一杯でした。今までの課題ですら毎回母親に泣きついては、おかんが「そう書いたらええやん」と言ったことをそのまま書いて乗り切ってきましたが、今回ばかりはお手上げ、こんな授業やめてやる！という思いさえ脳裏をかすめました。TOHO なんばのグッズショップにあるリコリスでも買ってお茶を濁そうかなぁなんて思っていたところに、弟の辻本希光こと T.LIGHT がやってきて、「兄ちゃん、これ商店街の福引で当たったからあげるわ」と何やら置いていきました。見ると、ななななんと！　タイランドへの旅行券ではないか！

と言うわけで、ワタクシ、JAL に乗ってタイまでやってきました。「象」といえば「タイ」、「タイ」と言えば「ニューハー……「象」！！と言うくらいですから、白い象くらい道端にぽんぽん転がってると。何なら日本に持って帰って来て、お披露目できるんじゃないかとワタクシ意気込んでおります。

さて、タイに着いたので早速……

屋台でビールと串を頂きましたよ！　そして、何やら怪しげなスープを売っている屋台を見つけたので「白い象のスープをくれ！」と言ってでてきたのがこれ！　屋台のおっちゃんは眉根をしかめてい

たけど、見てくださいよ！　いかにも「白い象のスープ」って感じでしょ！

　さて、どんどん行きますよ！　「象」と言ったら強いイメージがありますよね。あの百獣の王と呼ばれているライオンですら、１対１じゃ象に文字通り歯が立たないんですよ。そこでワタクシ閃（ひらめ）きました。タイと言えば、タイボクシング、ムエタイ。ワタクシも幼少の頃はよく親父にタイキックを喰らわされていました。これはワタクシの闇です。……ともあれ、ムエタイを見に行ったら「白い象」というあだ名のムエタイ界の神様に会えると睨（にら）んだワタクシはリング場に駆けつけました。

ビールを片手に観戦しましたが、その迫力にビックリ！　今ここで実演したいくらいです。
　さて、いかがでしたでしょうか。そして、最前列のV.I.P席で観戦していたワタクシは、スタッフの好意で試合後のチャンピオン、まさに「ホワイト・エレファント」との記念写真をとらしていただいたのです。それがこちら。

おっと、こちらはスタッフの姉さんでした。まさに白い象の如（ごと）き美しさ。荒野に咲く一輪の「ホワイト・エレファント」……じゃなくて、こっちでしたね。
見てください！　これがムエタイのいわば「ホワイト・エレファント」ですよ！
これ！　象の割にはひょろいなあなんて思わない！　白い象の如く筋肉が締まってますから！

タイでは果物の屋台もあるんですね。毎朝、白い象も好んで買いに来るそうです。（おばちゃん談）

さて、ここまでで皆さん「酷い！」「こじつけにも程がある！」とお茶を濁されたでしょうから、そろそろ本気出していきますよ！　タイと言えば仏教、仏教と言えばお釈迦様。伝説によると、お釈迦様は白い像の姿になって摩椰夫人の胎内に入って、そこから誕生したというではないか。つまり、タイランドの各地に点在する仏閣や遺跡を巡っていけば、ここはタイだぞ！白い象なんぞ掃いて捨てるほどいるわ！　という具合に拝めるんですよ。

というわけで、バスで北上してアユタヤ遺跡の方まで足を延ばしましたよ。

ありがたやありがたや。そして、ついに……

「白い像」が！！　ってこんなんじゃあかんかな。惜しいと思うねんけどなー。
頑張ったつもりやねんけどなー。もう、とりあえず象乗っといたらいいんでしょ。

ほら！どうだ！これで満足か！　……ヤケになったワタクシはバンコクに舞い戻って、白い象のような麗しき女性を求め、ナナ・ステーション・プラザへ。

わーわー……って左の写真の子はニューハーフやからね。
まあ、ここではゴーゴー・バーの女の子とニューハーフに無駄にモテましたよ。

屋台。なんならこれも白い象の肉です。（なわけない！ by 師）

屋台の女の子（？）たち。白い象のような美しさです。

そして、タイの道端で急に相撲が始まる。「白鵬」ならぬ「白象」やね。

・To Cambodia・

タイに白い象なんかいねえよ！時代はカンボジアだ！　ということで電車でカンボジアへ。

→→→

カンボジアについたら、もう真っ暗。次の日、アンコールワットへと向かう。

途中で出会った姉妹。もう君達が白い象でいいよ。

アンコールワット。いきなり白い象のようなドレスを着た女性が……これは期待大！

これは惜しくも馬。　　やっぱ象はいないよねー。　おりそうやねんけどなー。

白い象に会えるようにお祈り。

ほら、白い象のようなふくらみのある乳に。

これも象ちゃう。

そして、カンボジアの女の子。

白い象のようなお腹してるでしょ。

こっちはエプロンが白い。

ダメだ！いない... ってことで再びタイへ...

・Back in Thailand・

タイに　　女の子はおっても……

白い象なんて　　どこにも　　おりまへーん。

でもね、実は始めから見つけていたんですよ、白い象。この白い象を探す旅で楽しいときもつらい時もいつも一緒だったんですね。

Chang ビール

ほら見て！　この２頭の白い象！

もうね、向こうではこればっか飲んでました。Tシャツも買いました。

ここにあるChang（チャン、チャーン）とは、タイ語で「象」を意味して、ラベルにも白い象の姿を見ることができ、まさにタイを象徴するビールといえますね。なぜ２頭いるのか？まぁおそらくデザインでしょう。とってもお洒落ですね。

また、単独調査を行ったところ、タイ国内での売り上げがNo.1だそうで、間違いなくタイの看板ビール。ちなみにお味の方ですが、ワタクシ好み。フルーティーさが際立ち、ラガーなのに、甘みを結構感じることが出来ます。

だが、しかし、

これだけでは納得いかないと思いますので、今回は特別に白い象をスタジオに持ち帰ってきました！！ビールじゃないですよ！モノホンですよ！モノホン！

◇ ◇ ◇ ◇

GREAT JOB!　　THANX.　　by 師。

私がこの夏出会った動物たち

千 葉 紗 里 衣

このレポートを書き始めるときに、まず何をテーマにして書こうかと考えたが、考えれば考えるほど、少し焦ってしまった。なぜなら夏休みのあいだ、このレポートのことはおろか、わたしは白い象のことをおもいだしたことなんて一度も無かったからだ。夏休み前の授業で、このレポートのことを知らされたとき、夏休みは白い動物を探しながら過ごそう！という決意をしたのに、そんな決意はすっかり忘れ、毎年のように何も考えず遊びほうけてしまった。しかし、ふと夏休みに撮った写真を見てみると、以外と動物に出会っていたことに気付いた。なので、私が夏休みに出会った動物（生きているか生きていないかは関係なく）をもとに動物が持つ意味を書いていこうと思う。

～淡路島　にて～

まずは夏休み序盤、兵庫県、淡路島にあるイングランドの丘で出会った白い動物。羊。向こうの入り口は餌を買った人が入れる場所で、わたしがこの写真を撮っているこちら側は餌を買わなくても羊を見ることができる場所。それがわかっているのか、羊は向こう側にしか集まらず、小さな声で呼ぶぐらいでは振り向きもしない。ちょっと大きな声で、「おーい！！！！！！」と叫んでやっとこれくらい振り向いてくれる。

さて、白い羊というのはよく知られているが、黒い羊もいることをみなさんは知っているだろうか。

The boy is aware that he is a black sheep in his family.
彼は自分が家族の中で厄介者であることに気付いている。

英語ではこのように訳される。黒い羊は“厄介者”とされているのだ。これは、“白い羊の群れの中には必ず黒い羊がいる”という慣用句からきたもので、白い羊の毛は白色から様々な色に染めることができるが、黒い羊は黒色にしか染めることができないことから、純粋、潔白の意味を持つ白色とは対照的にこのような表現が使われる。

隣の小屋にいたのは山羊。なぜか山羊の小屋には餌の箱も置いてあるので観光客に餌をもらう必要がないのか、大きな声で呼んでも羊のような反応すらなく、ずっとこの状態。

しかし白い山羊と持つ意味を調べたが何も出てこず、あまり隠された意味はない様。

～東京　浅草にて～

これは、お盆に東京で出会ったお面。左に白いキツネがいるのがわかるだろうか。外国人の観光客が群がっていたので、何が置いてあるのかと気になって見に行くとこれがあったので並んだ記念に撮っておいて良かった。

白い狐は、日本では京都の稲荷神社の白い狐霊として知られており、他にも金色や銀色の狐もいるがそれは悪い狐の霊とされており、正しい狐霊として知られているのが白い狐である。

しかし、白い狐を実際に見た例は少なく、この世とあの世を往来する不思議な動物とされており、もしこの白い狐を捕まえようとするなら、あっという間にあの世へテレポートされてしまうと言われている。

～東京ディズニーランド　にて～

こちらはディズニーランドに行ったときに出会ったリトルマーメイドの中にいる、「白いイルカ」おそらくシロイルカをモデルにしていると思われる。

神話や伝説などでシロイルカの存在が書かれていることが実際にも白いイルカや白いクジラは目撃されている。これらの白い動物は突然変異で白色になった“アルビノ種”と言われ、大変珍しい。が、この体色から他の動物に目をつけられることが多く寿命が短いそう。

これはトゥーンタウン（ミッキーやミーの家のあるゾーン）に現れる白いキリン。他にも、赤、青、黄色のキリンがたくさんいる。

そもそも、白い麒麟はアフリカで伝説の動物とされており、写真もある。中国では霊獣とされている。『白い麒麟を追って』という本も出版されている。

ローレン セントジョン（著）

冬限定で白麒麟というビールも発売される。

そして日本に白い麒麟の像は二つしか無く、ひとつはKIRINビール本社に、ひとつは気仙沼にある博物館だそうだ。このKIRINビールに置かれている麒麟の像は見る人によって見え方が違い馬に見えたり龍に見えたりするそうだ。

～中国にて～

次に、わたしが夏休みに東南アジアをバックパッカーしていた時にたまたま写真に撮っていた動物。

中国にて、門に沖縄のシーサーのような銅像。中国の豫園に行く途中、道に迷っているところをこの写真に写っている中東系の心優しいおじさんが連れてきてくれた。が、ホテルに帰ってから調べるとここが豫園ではないことが分かった。

なので、次の日、今度はきちんと道を調べて行ったもののやはり迷う。十数人の中国人に道を聞くが、だれも本当のことを教えてくれず、迷子になりながらなんとか着いた。

前日の違うところで見たのと同じような犬がここにもいた。これは、日本の神社にも置かれている獅子と似たようなもので、中国では高麗犬とも呼ばれる狛犬である。魔よけとして、宮殿の門などに祭られているそう。

これは外灘の近くを歩いていた時にいた牛。町のど真ん中に置かれていたので中国らしいなと思い偶然撮っていた写真。日本に帰ってきてから調べてみると、これは外灘牛と呼ばれるらしく、重さ 2.5 トン、長さ 3.2m 高さ 3.2m の巨大な銅像作品となっていて、力と勇気の象徴の牛として金融市場がいつまでも活況あるよう願いを込めて 2010 年の上海万博の年につくられたそう。

～タイ　にて～

下はタイで見た狛犬。インドやタイでも狛犬は魔よけとされているらしい。

ここまで、白い象とはあまり関係のない動物ばかりだったが、最後に、タイのワットプラケオの中にいた象！写真に写っている象はこれしかなかった。

しかし、思い返してみるとタイの街の中には象の銅像や絵が多くあったような気がする。タイは象とのつながりが強く、かつて戦で先頭に立って戦っていたため象は「勇気と誇りの象徴」とされており、同時に「幸せの象徴」として成功や幸運などたくさんの意味を持っているので会社や学校に象を象徴としたマークが使われていたりするそうで、ラマ６世６０周年の時にはこのホワイトエレファントが送られた。

言われてみれば、タイの国は象に見えるような？！

象と関係の深い国に行ったにもかかわらず､象の写真を全然撮っていないことをとても悔やんだが、レポートを無事に書くことができてよかった。以上が私が夏休みに出会った動物である。

「白い」料理を求めて
～食べ物の中のホワイト・エレファント～

河 内 康 延

私は前期の「米文学演習 I」の講義で、ヘミングウェイの“Hills Like White Elephants” について学んだ。そして、題名の中にある”White”に関して興味を持ち、何か日常生活の中で白い物はないだろうかと考えた結果、食べ物のことが思い浮かんだ。そこで、白い食べ物について調べたことをまとめていきたい。

・白ご飯、餅

“白”でまず思い浮かんだのが、白ご飯や餅である。これらは非常に日本人に馴染み深い食べ物であるし、日常生活にも深く浸透している。しかし白米の状態では、ビタミンやミネラルの大半が失われ、炭水化物ばかりの状態になってしまうそうで、そういった点では、“white elephant”（厄介なもの）の意味にどこか繋がりがあるように思われる。

・牛乳、ヨーグルト

私たちが一般によく口にする白いものと言えば、牛乳（食べ物ではないが）やヨーグルトである。これらはカルシウムが豊富で私たちの成長の助けとなってくれるものであるが、もともと日本にはなかったものなので、うまく消化できない人も多くいる。こういった点で白米と同じく“white elephant”の意味に繋がりがあるように感じる。

・砂糖、塩

こちらも食べ物というよりは調味料であり、調理をする上では欠かせないものである。しかし、塩分を摂り過ぎると高血圧に、糖分を摂り過ぎると糖尿になってしまうおそれがあるので、どちらも摂り過ぎには注意が必要である。場合によっては“white elephant”になり得るのかもしれない。

・えのき、白まいたけ、ぶなしめじ

鍋などでは必ずと言ってよいほど入っているえのきなどのキノコ類。カロリーが低い上に栄養価も非常に高い食べ物であり、まさに理想的な食材ではあるが、個人的にキノコ類は全般的に大嫌いなので、私にとっての“white elephant”である。

・豆腐

「日本に古くからある白い食べ物の代表格」であるといっても過言ではないのが豆腐である。高タンパク・体脂肪・低カロリーで理想的な食べ物。キノコと違って、個人的に豆腐は大好物である。しかし、大豆製品であるので、大豆アレルギーの人にとっては隠れた“white elephant”である。

・うどん、そうめん

夏の食べ物と言えば、そうめんが思い浮かぶのは私だけではないはずだ。また、冷やしても温めてもおいしいうどんは私の大好物のひとつ。こちらも小麦にアレルギーがある人にとっては“white elephant”なのかもしれない。

・大根

日本人に馴染み深い野菜の一つ。大根おろしにして薬味にしたり、刻んでサラダにしたり、煮物にしたりと、様々な用途がある。中でも大根おろしは二日酔いに効くそうだ。日本には大根役者という言葉があるが、これは大根が、食べても決して当たらない食べ物であるところから、当たらない芸を差す意味を持っている。この意味を踏まえると、大根が“white elephant”である人は少ないのかもしれない。

＜最後に＞

白い食べ物について調べていると、とても興味深い記事を見つけたので紹介したいと思う。

上記の白ご飯の所でも少し触れたのだが、白米や白い砂糖、小麦粉などは、そのほとんどが本来の姿ではなく、白い方が綺麗に見えるからという理由で精製されているのだが、こうした精製された食べ物は、ビタミンやミネラルといった栄養素がほとんど削り取られて、中身のない食べ物になってしまうのだ。食べ物が体内に取り込まれると消費が行われるのだが、消費活動にも栄養やエネルギーが必要になってくる。しかし、これらの食べ物にはほとんど栄養やエネルギーが含まれていないため、体内から消費をするためのエネルギーをひねり出さなければならず、食べても体からエネルギーが奪われてしまうので、脳がさらに食べ物を欲して食べても食べてもきりがないという状況になってしまうようだ。

“Hills Like White Elephants”から、“white elephant”には“厄介なもの”という意味があると学んだが、今回白い食べ物について調べるにあたって最も“white elephant”の意味に当てはまるものであると感じたので、以上のようにまとめてみた。

白い食べ物（特に白米など）を食べるときには注意が必要なのかもしれない。

参考文献

・「ローフードダイエットで超健康体になろう」
http://rawfood.jugem.jp/?eid=31
・OKWAVE
http://okwave.jp/qa/q6275100.html

旅を通して見つけた女の楽しみ

吉 見 明 莉

食、買い物、美の追求　In South Korea

私は、今年の夏休みに様々なところに行ってきました。大変有意義に過ごし、今までにないくらいの最高の夏になりました。行った場所はというと、韓国と東京ディズニーランドなのですが、どちらも女の子ばかりで行きました。旅先で感じたのは「やっぱり女同士は最高だ！女だからこそできること、楽しめることがたくさんある！」ということです。そこで、私がこの夏旅先で見つけた女性ならではの楽しみというものを紹介していきたいと思います。

まず、9月10日から12日にかけて大学の友達と一緒に韓国に行ってきました。こちらは韓国の夜の街です。東大門という街で、「眠らない街」と言われています。なぜならこの街のショッピングモールや屋台などは朝の5時まで営業しているからです。私たちはこの街で夜中の2時まで買い物をしていました。韓国では主に買い物をしました。女性は買い物が大好きなのです。韓国は日本よりも物価が安いため、日本円にするとかなり安い価格でたくさんのものを購入することができました。安く、そしてたくさんのものをSHOPPINGする、これは女性にとってはすごく楽しくて幸せな時間です。二泊三日の旅を終えて私が買った物はこちらです。鞄に靴、服や化粧品ピアスなどのアクセサリー類を購入しました。

また、韓国では買い物だけでなく、おいしいご飯も安く食べることができました。私たちが食べたのは「サムギョプサル」という豚肉を鉄板で焼いて野菜で巻いて食べるというものなのですが、お腹いっぱい食べて日本円で二千円ほどです。

女性はおいしいものを食べるのも
大好きなのですが、なかでも特に
好きなのが甘いものです。

こちらも韓国で食べました。ワッフルと抹茶ラテです。これらは日本でも食べられそうなものなのですが、価格が安いので得をした気分になります。二つ合わせても日本円で500円くらいでした。ちなみにこの写真のものは、全部一人で食べました。

Kawaii & Atraction ― In Tokyo Disney Resort ―

次に、ディズニーランドで食べた物を紹介していきます。

ディズニーランドには、9月25日から26日にかけて中学の頃の友達と一緒に行きました。宿泊先は三井ガーデンホテルです。こちらはディズニーのキャラクターのパンです。上の左のものがミッキーのマークのついたクリームパン、右が『モンスターズ・インク』に出てくるキャラクター、マイクの形をしたメロンパン、下の左のものがミッキーの形をしたチョコレートマフィン、右が骨の形をしたライスブレッドです。骨の形をしたものは縁起の悪いものではなく、ミッキーの愛犬プルートが骨が大好きだから骨の形をしているんだろうと思います。また、こんなものも食べました。

ドナルドの足の形をしたバーガー、「ドナルドバーガー」です。中には海老カツがサンドされています。味がおいしいかどうかはともかく、かわいいディズニーのキャラクターの食べ物を見ると、ついつい買いたくなってしまうのです。おいしいものを食べ、ミッキーなどのキャラクターに触れ、かわいいお土産品やキャラクターを目にし、ディズニーの音楽を聴きながらパーク内を歩き回ることで、〔味覚、触角、視覚、聴覚すべてを満たされます。〕

Enjoy Riding

そして、こちらは今年ディズニーシーに新しくできた、トイストーリーのアトラクション、『トイストーリーマニア」です。

大変人気のアトラクションなので、ファストパスは開園15分で売り切れ、出来た当初は500分待ちにもなったという噂を聞いていました。なので私たちは朝6時に起き、開園の約一時間前にディズニーランドシーの前で並んで待っていました。開園と同時にパーク内を走り、トイストーリーマニアに向かって全力疾走しました。しかし、周りの人も皆同じことを考えているので、皆が走って並びにいっていました。まるで、トイストーリーマニアというゴールを目指してディズニーランドシーの中でマラソン大会をしているような気分でした。一時間前に並んだ甲斐もあり、約50分待ちで乗ることができました。自分がしたいこと、手に入れたいもののためには我慢強く待つ、これも女性ならではの特徴なのではないでしょうか。私は母と父と三人で出かけることがあるのですが、ご飯を食べたりお茶をしたりするとき、店の前の行列を見て私と母は「待とう！」と言うのですが、父はとても嫌がります。待つ時間は少し辛いけど、それを乗り越えて手に入れたものは「待った甲斐があった」と、それ以上の幸せを感じることができるのです。

☆行列：それは男にとって白い象、女にとっては幸せへの入り口か、なるほど・・・　　by 師。

Enjoy Disney Characters

そして最後に、私と友人がディズニーランドで着ていた服を紹介します。

ドナルドのワンピースです（右）。

頭にもドナルドの帽子をかぶっています。このニット帽はすごくお気に入りです。このようにドナルドのコスプレをすることで、夢の世界にどっぷりつかれてはまりこめるから楽しいのです。家族で来たり、恋人同士で来たりしている人もたくさんいましたが、お店で一緒に服を選び、おそろいの服を着て、ディズニーランドを楽しむというのは女同士ならではの楽しみだと思いました。
「やっぱり女友達が一番やな！」と言いながら過ごした二日間でした。

女性に生まれてよかった、そう思えた夏休みでした。

◇　◇　◇　◇

報告受了：
「白い象のような山並」の主人公、少女 Jig の心の中は、男にはわかりにくかったですが、参考になりました。ジグは心のどこかで「男女旅」ではなく「女子旅」を求めていたのかもしれないねー。

（by　師）

吉兆をもたらす白い動物たち

谷 脇 裕 紀

白い象から派生して

Ernest Hemingway の“HILLS LIKE WHITE ELEPHANTS”という作品でキーワードとなっている“white elephant”は英語の慣用句であり、白い象という意味のほかに「無用の長物」や「厄介なもの」といった意味を表す。この慣用句がこのような意味を持つようになった背景には１つの通説がある。

昔、現在のタイであるシャム王国では白い象を神聖視していた。王は気に入らない廷臣に白い象を贈っていたのだが、この像は王からの贈り物であるので、使役してはならないし、芸をさせてもいけないし、殺してもいけなかった。何の役にも立たないのに、世話の費用ばかりが掛かってしまう厄介者でしかなかったのだ。このような背景から“white elephant”は「手がかかって役に立たないもの」という意味になったと言われている。

白色という色は潔白、神聖、純真、清潔、素直といったようなイメージを持つ。確かに白い動物というのは縁起が良かったり、神話や伝説にもよく登場したりするような気がする。そこで今回は何かの象徴だったり、何らかの言い伝えを持っていたりする白い動物について調べてみようと考えた。

因幡（いなば）の白兎（しろうさぎ）

日本神話の中に出てくる白い兎のこと。この兎は隠岐（おき）の島に住んでいて、ある姫神に会うために向こう岸の因幡の国へ行こうと考えていた。そこで白兎は鰐鮫（わにざめ）をだまして向こう岸に渡ろうと考え、鰐鮫の仲間と自分たちの仲間とどちらが多いか比べてみようと提案し、鰐鮫を因幡の国まで並べさせ、その上を渡っていった。（ここでいう鰐鮫とは鮫の一種だと言われている。因幡（現在の島根県）の方言では鮫のことをワニと言うらしい。）そして向こう岸に着きそうになったとき、実は鰐鮫をだましたのだと言うと、鰐鮫はそれに怒り、白兎の体中の毛をむしってしまった。毛をむしられて苦しんでいた白兎は大国主命（おおくにぬしのみこと）という神様と出会い、河口に行って真水で体を洗い、蒲の穂をつけるように言われ、白兎がその通りにすると、やがて毛が元通りになった。喜んだ白兎は会いに行くつもりだった姫神にこのことを伝え、それを聞いて感心した姫神は大国主命と結ばれた。

白い蛇

日本各地で縁起のいい動物として信仰の対象となっている。弁才天の使いとして富をもたらすものとして有名だが、水神としても有名である。「白い蛇」を見ると幸運に恵まれたり、夢の中に白い蛇が出てくると大金が手に入ると言われたりしている。

鶴

古来より「鶴は千年」といわれ「長寿を象徴する吉祥の鳥」として尊ばれてきた。また夫婦仲が大変良く一生を連れ添うことから「夫婦鶴」といわれ、夫婦仲の良さの象徴である。さらに鳴き声が共

鳴して遠方まで届くことから「天に届く＝天上界に通ずる鳥」といわれるなど、民衆の間で「めでたい鳥」とされてきた。

白い鹿

白い鹿は西洋、東洋で共に神の使いとされていて、お酒のブランド「白鹿」はこの伝説からとられている。また毎年角が生え変わる事から、死と再生を繰り返す動物、つまり生命の象徴として信仰されてきたとてもおめでたい動物。ヨーロッパの昔話ではしばしば大きな角を持った牡鹿が森の王として描写されています。

シュバシコウ（コウノトリ）

コウノトリ目コウノトリ科の嘴（くちばし）の赤いコウノトリ（コウノトリの嘴は黒色）の仲間の白い鳥。高い塔や屋根に巣を作り、雌雄で抱卵、子育てをする習性からヨーロッパでは赤ん坊や幸福を運ぶ鳥として親しまれている。このことから欧米には「シュバシコウが赤ん坊をくちばしに下げて運んでくる」または「シュバシコウが住み着く家には幸福が訪れる」という言い伝えが広く伝えられている。日本では「幸の鳥」と書くことのできるので、シュバシコウという名前ではなく、コウノトリの名前の方が広まっていき、「コウノトリが赤ん坊をもたらす」と言われるようになった。

白い鳩

平和の象徴と言われている。旧約聖書の創世記８章に、ノアの洪水についての記述があり、この中にノアが放った鳩がオリーブの若葉を持ちかえり、これによって洪水が終わったことを知る話がある。この聖書の記述がキリスト教世界における「鳩」＝「平和の象徴」の由来とされている。実は、古代ギリシャ・ローマ時代から、鳩とオリーブは無垢と平和の象徴だったとも言われている。

ユニコーン

一角獣とも呼ばれる。ライオンの尾、牡ヤギの顎鬚（あごひげ）、二つに割れた蹄（ひづめ）を持ち、額の中央に螺旋状（らせんじょう）の筋の入った一本の長く鋭く尖った真っ直ぐな角をそびえ立たせた、紺色の目をした伝説上の白い馬。純潔、貞潔の象徴でスコットランドの国章にもなっている。

考察

今回取り上げた動物たちは、意図的にそういった動物ばかりを選んだわけではないが、それらのイメージや、それらが象徴しているものでマイナスイメージのものは一つもなかった。やはり、白色という色は何色にも影響されることのない神々しい色だと古くから考えられてきたのではないだろうか。また普通は白くないはずの種の動物（白色以外の色の方が多い動物）の白い個体は特別視され、神聖なものとして神話や言い伝えの中に登場するようになったのではないかと私は考えた。しかし、そういった神話や言い伝えにははっきりとした科学的根拠が存在するものが少なく、神話中の動物が本当に存在していたのか、本当に白い動物たちが言い伝えにあるような効果や影響をもたらすのかを解明しようとすることはまさに“white elephant”、つまり厄介なことや無用なことなのかもしれない。

Japanese Culture を届けた夏 in Taiwan

宮部　優

～はじめての台湾で～

この夏、私は台湾で日本文化を現地の小学生に伝えるボランティアに参加しました。主催はＮＩＣＥ（日本国際ワークキャンプセンター）（日本側）と Vision Youth Action (VYA)（台湾側）でした。場所は台西國際藝術村 -Taisi workcamp(Taisi international art village) というところで、雲林県に位置し、首都台北からバスで４時間ほどの小さな田舎町です。首都台北は近代的な建物が多いですが、ここはまったく雰囲気が違います。村近くには台西活力海岸があり、とても景色が綺麗です。下はその海岸の写真です。牡蠣などの魚介類が有名で、村のいたるところで牡蠣の生産の作業をしています。まず牡蠣の貝殻に穴をあけ、ワイヤーを通しそれを海に沈めるとまた牡蠣ができるそうです。この様子は以下の URL から見ることができます。(http://www.youtube.com/watch?v=tQ_RT2nrnxE)

しかし、失業問題から人口が減少し、都市との経済格差だけでなく、子供たちの教育格差の問題も起きています。

そして今回の活動についてですが、ここ台西國際藝術村では 2007 年から VYA は NICE とともにこの Taisi ワークキャンプを開催しています。目的は、Taisi の街の子供たちや地域住民の人々の国際理解、自分たちの歴史背景を理解すること、海外からの参加者と地域住民との交流、台湾と日本そして他の国々との友好関係を築くことにあります。ワークキャンプでは、世界中から集まった参加者たちが街の壁に自国の文化を題材にした壁画を描きます。そして滞在期間中には地元の子供たち、地域住民の人々を対象に文化紹介のイベントを開催します。台西國際藝術村の街を歩くといたるところに壁画があり、歩きながら各国の文化を学ぶことができるというわけです。まさに「国際芸術村」です。

↑牡蠣の山　　↑村じゅうにある沢山の壁画

～活動内容～

ではここからは私が今回のワークキャンプで行ったことを書こうと思います。まずだいたいの活動はこんな感じでした。

<table>
<tr><th colspan="2">時　間</th><th>朝</th><th>昼</th><th>晩</th></tr>
<tr><td colspan="2">9/16（日）　1日目</td><td colspan="2">到　着</td><td>オリエンテーション</td></tr>
<tr><td colspan="2">9/17（月）　2日目</td><td>オリエンテーション
村散策</td><td>ワークの準備</td><td>台湾語講座</td></tr>
<tr><td colspan="2">9/18（火）　3日目</td><td rowspan="3">Taisi の小学校にて
日本文化紹介の授業</td><td rowspan="3">壁画制作
宿泊施設から歩いて
10分ほどの場所</td><td>翌日の授業の準備</td></tr>
<tr><td colspan="2">9/19（水）　4日目</td><td>Culture Night
準備</td></tr>
<tr><td colspan="2">9/20（木）　5日目</td><td>Japanese Culture
Night</td></tr>
<tr><td colspan="2">9/21（金）　6日目</td><td>全校生徒対象に
日本文化紹介</td><td>活動の評価
ミーティング</td><td>BBQ ＠台西活力海岸</td></tr>
<tr><td colspan="2">9/22（土）　7日目</td><td>出　発</td><td></td><td></td></tr>
</table>

まず参加メンバーですが、日本から14名、台湾から4名でした。朝、昼、夜の食事や、宿泊施設の清掃はこの18名の中で班分けをし、ローテーションで行いました。地元の見たこともない野菜などの食材を使ってみんなで料理をするのはとても楽しいです。このように、ワークキャンプの趣旨である壁画制作や小学校での授業だけでなく、衣食住をみんなで共有できるところがワークキャンプの醍醐味でもあります。

小学校での授業では、話し合いの結果、日本についてのクイズ（日本の首都、東京はどこでしょう？など）を出題し、折り紙で紙相撲をつくり、みんなでそれを使って対戦をしました。台湾語が分からないのでボディランゲージと表情でなんとか頑張りましたが限界もあり、台湾のボランティアの方々の通訳がとても助けになりました。でも小学生は日本人に興味津々で、一緒に折り紙をしながら騒いだりしている間にも、沢山話しかけてくれました。日本のことを紹介しながら良い交流ができたと思います。私も小学校時代、小学校に何人かの外国人が来たことを覚えていて、その人たちと交流したことは「外国人とでも友達になれる！」という自信になったことを覚えています。ですからこの活動も地元の小学生の経験のなかで何かの役に立てたらと思います。そして壁画制作ですが、会議の末、

テーマは日本の有名な物語といえば・・・ということで『桃太郎』になりました。デザイン係の人が案を練って、その後みんなで毎日ペイントに行きました。

そして全校生徒の前での発表では、日本人参加者でソーラン節、炭坑節を披露し、「上を向いて歩こう」をみんなで歌いました。ソーラン節、炭坑節とも踊ったことがない人がほとんどで、毎日必死に練習しました。そしてみんなひどい筋肉痛になりました！！

↑壁画制作中

↑ソーラン節披露中

～活動の目的～

今回の活動の趣旨は、上にも記しましたが、

・地域の子供たちに世界の文化を伝え、共有する
・海外からのボランティアと地域住民との友好関係、相互理解、連帯関係を築くこと
・ボランタリズムと国家間の行き来を促進
・台湾と日本、その他の国々との深い友好関係を築く

ことでした。

実際にキャンプ中、料理をしていると、なにも言わず手伝ってくれる地域の少年がいました。彼は英語を話さないので、私や他の日本人ボランティアとは言葉での意思疎通がまったくと言っていいほどできない状況だったのですが、一緒に遊んだり、ご飯を食べたりしていました。ものすごく自然だったので、そのときは意識していませんでしたが、これも「地域の子供たちに世界の文化を伝え、共有する」目的の一部になっていたのではと思います。

小学校での授業とソーラン節などの発表が終わった後、体育館で小学生たちと写真撮影する時間があったのですが、そのときは沢山の小学生にサインを求められました。名前を書いて横に花のイラストを描きました。スター気分でした！このことをきっかけに、日本のことに興味を持ったり、いつかこの小学生たちが日本に遊びにきてくれたら嬉しいです。みんなで汗を流してソーラン節を踊ったあと、小学生のみんなが喜んでくれている姿を見たときの喜びは格別でした。

～最後に～

最後に今回の活動で感じたことですが、今までは、自分がやりたいこと、自分の自己実現に関することを多く考えてきたように思います。たとえば大学受験ですが、自分はなにを学びたいのか、何がしたいのか、そしてそのやりたいこと、実現させたいことが多く叶うほど幸せだという価値観でいました。たしかに自分のやりたいことを実現させることで、自分も周りの人の幸せになることは大いにあります。大教大には教師になる夢を抱いている人が沢山いますが、その夢を実現させることで、将来の子供たちの幸せにつながるでしょう。

でも、自分が叶えたいと思うことを実現させることだけが、幸せの条件でしょうか？今回キャンプで沢山の人に出会い、一緒に料理をしたり、汗を流して活動をした中で気づいたのが「共有できること」の幸せです。今回の壁画をもしひとりで全部描いていたら、たぶん喜びはこんなに大きくはなかったでしょう。みんなで描いて完成させたからこそ、喜びを共有できたのです。

このことは日常にも置き換えることができると思います。たとえば、「自分は高級レストランでフレンチを食べたい」という希望があったとして、それを実現させるために働いたり努力をすると思います。そして実現させるでしょう。しかしこれはひとりで頑張って、ひとりで嬉しいことです。それに比べ、「みんなでご飯を作って、食べよう」と望むならば、幸せを感じられるのは自分ひとりだけではありません。

このように、この夏活動した中で感じたことは「共有できることの素晴らしさ」でした。そしてこのことが、いい意味においてこの夏探し求めていた私にとっての“白い象”だったのかもしれません。

ヘミングウェイの真意は
～白い象と妊娠・出産の関係性を探って～

黒 田 勇 人

釈迦と白象の関連性

特に白い象にまつわるものを見たというわけでもなかったので、読み返してみた際、またほかの人たちのレポートを見た際に私が疑問を抱いたことを調べてみることにした。

白い象はアジアで神聖な動物として扱われているが、どうしてそれが神聖なのだろうか。アジアに何か古くから伝え継がれてきた言い伝えはあるのだろうか。もし何かあるとしても、ヘミングウェイは“Hills Like White Elephants”で、なぜ妊娠中絶を中心としたストーリーを創り上げたのだろうか。白い象と妊娠や出産を結びつける何かがあるかもしれない。そう考えて調べてみると、はるか昔の物語にこんなものがあった。『六牙白象』。それは、仏教の祖、釈迦の生涯を記述するうえで、最初に語られる。なぜならそれは、釈迦の誕生に関する物語だからだ。私たちの多くは釈迦がのちに語った言葉の数々は知っていても、誕生に関する話はそう耳にしないだろう。釈迦の誕生を以下に簡単にまとめてみる。

釈迦を産んだと言われている妃の名前は摩耶夫人で、結婚後は長い間、子どもに恵まれなかった。そして、二十数年が経ったある日、摩耶夫人は六牙の白象が空から降りて来て、自分の右脇から胎内に入る夢を見た。そして、その直後に彼女は懐妊したと言われている。摩耶夫人は臨月近くになり、国の習慣に従って生家に帰る途中、ルンビニーの花園で休憩した。その日はうららかな春日和で、木々は新緑にそまり、小鳥はさえずりながら枝から枝へと飛び交い、アシューカの花は麗しく咲き匂っていた。摩耶夫人が、その花の一枝を取ろうと手を伸ばした。その手が枝に触れるやいなや王子が誕生した。

どうやら白い象と妊娠、出産の関連があるようだ。ヘミングウェイがこれを意図して書いたかどうかは分からないが、昔の出来事からこうした結びつきが見られた。こうしたことから考察すると、おそらく、アジアで白い象が神聖視されている理由はここにあるのではないだろうか。仏教信者にとっての釈迦の存在を考えると、誕生時の話に登場する白い象が神聖視されることは大いにあり得る。また、この話は釈迦のような偉大な人物がその白い象の夢を見た後に産まれたということを重ね合わせて、釈迦のように偉大でなくとも、新しく尊い生命の誕生を蔑ろ(ないがし)にしてはいけないということを伝えようとしたのかもしれない。つまり、作品が書かれた当時の中絶手術に警鐘を鳴らした作品が“Hills Like White Elephants”なのではないだろうか。カップルが軽率な行動をとった結果が物語で語られることによって読者に訴えているのではないだろうか。ましてや、男の man という表現に対して、女を若い女性 girl と表現している場合ならなおさらだろう。

1920年代のアメリカ社会と中絶

ところで、ヘミングウェイの“Hills Like White Elephants”という作品を妊娠中絶に反対して書いたものだと私が推測した根拠となるものは、当時のアメリカの社会を探ってみるとわかる。ちなみに、この作品が出されたのは1927年である。

この当時のアメリカは妊娠中絶に対してどういった考えがあり、どれくらい行われていたのだろうか。19世紀の後半からこの作品が出版されるまでに限定するため、まずインターネットで「妊娠中絶　1927年　アメリカ」と検索してみると、アメリカでは多くの女性が人工妊娠中絶の手術を受け、頻繁に出産を制限しているという事実に対して、当時のアメリカ人は罪の意識のために、ひどく悩み苦しんでいたという記述を見つけた。また、その行為をせざるを得ない状況とその行為そのものの未熟さにも多くの問題があった。当時のアメリカ人は、このまま中絶手術が続いていくと、やがて自分たちはカトリック（いかなる妊娠でも中絶を禁じている）教徒の移民や有色人種によって人口的にも政治的にも圧倒されるのではないかと考えた。こうして、医師たちは安易に中絶手術を行う女性たちを「利己的で個人目的のために、子供を虐殺し、毒殺する」と非難し、女性の本来の役割としての結婚・出産・家庭の重要性を強調した。

さらに、中絶の非合法化と闇の中絶は女性間の不平等をもたらすこととなった。なぜなら、白人の裕福な女性は治療という名目で専門医のもとで中絶手術を受けることができたからである。言い換えれば、低層階級や移民の貧しい女性たちは、自力中絶や闇中絶に頼るほかなかった。しかし、自力中絶や闇中絶は感染症などで死亡する危険をはらんでいた。その証拠に、連邦政府の調査によれば、1927年と1928年に死亡した妊婦のうち少なくとも14%が非合法中絶によるとされている。

ヘミングウェイはこうした状況に対して、何かを伝えたいと思っていたのではないだろうか。この当時では、そう珍しくはないストーリーだったのかもしれない。また、この作品の中で、girlがどこかを境に吹っ切れたような場面があった。産もうと決心したか手術を受けようと決心したかはわからない。ただ、ヘミングウェイの真意が先に述べたようなカトリック的な考えから来ていて、人工中絶手術に対して反対の立場だったとしたら、どちらを意図したのだろうか。産もうと決心したのなら、ヘミングウェイの時代に対する願望かもしれない。手術を受けようと決心したのなら、当時の実情を単に描写したのかもしれない。どちらにしても、中絶を良しとしない強い思いがあったのだろう。

参考文献

「RELAX・モミ庵休業のお知らせ　～おシャカさん～」（インターネット）
「マーブル先生奮闘記　～ピル（Ⅱ）時代と運命の出会い～」（インターネット）

◇　◇　◇　◇

「人工妊娠中絶自体がアメリカの「白い象」だったのかもしれないな。
　さらにひとまわり大きな世界が見えたね」　by　師

白い象の神様
～インド料理店で探す～

谷　　翔太

今回、夏休み前に、この白い象を見つけるという課題が先生に出された時、僕は正直やらなくても大丈夫だろうと思っていました。しかし、夏休みも明け後期の授業が始まると、周囲の人たちが出しているのを見て、一人でそれは焦りました。そのことを友達に相談すると、「白い象といえば、インドしかないやんけ」との助言を頂きました。しかし、いくらインドにその手がかりがあったとしても到底インドまで行くことはできません。そこで、その友達を仲間に引き連れ行ってきました。

ここはインド料理屋ですが、店員さんのほとんどはネパール人であるというお店。店内に入り、いきなり白い象を求めて探すというのも失礼であると友達との話し合いによって気づき、とりあえずお昼のランチ、カシセットを頼むことにしました。写真はないのですが、非常においしく頂きました。ちなみに、偶然かはわかりませんが、ここの店長の名前はカシさんです。

僕の地元にある『インド料理プジャ　法隆寺店』

食べ終わって、店員さんの許可ももらって、店内を捜索し、まずはじめに見つけたのが、これ。

惜しい。普通の茶色い象の銅像でした。しかし、ここで僕と友達は確信しました。ここの店に、白い象はいるということを。次に、店内を見てみると、この模型を見つけました。

ヘビの模型です。インドでヘビといえばヘビ使いのイメージがあったので、調べてみると、インドでヘビ使いというのはインドの法律ではなんと禁止されているとのことです。しかし、一部の地域では観光資源として黙認されているというのが現状みたいです。しかし、僕が興味あるのはヘビやヘビつかいではなく白い象。ということで見つけてきました。

『夢を叶えるゾウ』でおなじみのゾウの神様のガネーシャ。ここの店の置物のガネーシャは白い色をしていますが、実際のところ何色なのかはわかりませんでした。

このガネーシャについて、調べてみました。すると、このガネーシャは、「商売繁盛」「学問の神様」「お金の神様」「開運の神様」「障害を除去してくれる神様」などといった幸せに関する全てに対し、夢をかなえてくれる神様みたいです。このガネーシャの下にいるネズミはガネーシャの乗り物で、ゾウがネズミに乗るということで、ガネーシャは何でもできるよ、という意味が含まれています。

ということで、今後ガネーシャの置物を見つけたら購入し、家に持って帰り、その恩恵を授かろうと考えています。